



# こんにちは、岡田よしひでです

2021年10月3日発行  
県議会活動報告ニュース  
NO.100

自宅 南国市浜改田 430-1  
TEL/FAX 865-2932  
携帯 090-4337-4527

岡田よしひで事務所 864-2426 南国市駅前町 2-5-11 県議会共産党控室 823-9524 高知市丸ノ内 1-2-20

県議会9月定例会は29日から代表質問に入りました。私は10月6日に米価暴落の問題を取り上げ質問します。

## 米価暴落 政府は余剰米の買取を

コロナ禍による米価暴落に歯止めがかりません。全国では、今年の出来秋に農協が農家に支払う概算金（前渡金）で1俵1万円を下回る銘柄が続出し、昨年の半値近くまで下がった銘柄もあります。生産費を大きく下回る異常事態です。このままでは米作り農家はもとより、地域経済にも大打撃となります。

J A高知県（南国営農経済センター）によると、令和3年産うるち米の概算金は各品種とも一俵、1,000円か



ら1,300円の大幅値下がりです。

例えば、第一期の集荷開始から7月27日までの2等米、1俵、60kg当りの概算金を昨年度と比較すると、「南国そだち」は11,700円が10,700円に1,000円下落。「よさ恋美人」と「コシヒカリ」がともに11,300円から10,000円に1,300円下落しています。「ナツヒカリ」も9,700円から8,400円に同じく1,300円下落しています。1等米、3等米も同じように値下がりしています。

くわえて、今年は、収穫時期の長雨で品質が低下した米が少なくありません。このことから、コメ農家は、初めてコロナ禍に見舞われた昨年以上に厳しい状況となっています。米価暴落は、農家にとって死活問題です。

米価暴落の原因は、米の需要が毎年8万トン、最近では10万トン減少していることもあり、最大の問題は、昨年来の新型コロナウイルス感染症による業務用の米の大幅な需要減少にあります。

したがって、対策としては、余ったコメを、政府が備蓄米として緊急に買い取って市場から切り離すことが必要で、それが最も有効な対策となります。「コシヒカリ」が1俵1万円では農家はやっていけません。米を一俵作るための生

産費は、令和元年度で全国平均15,155円です。認定農業者15ha以上でも10,851円です（農水省資料）。

政府は、今年度米について、備蓄米として買い入れを求める農家や関係者の声には一切耳を傾けず、生産者に過去最大（36万トン）生産量の5%の作付け転換を押し付けました。生産者の懸命な努力でこの目標がほぼ達成されたにもかかわらず、過剰在庫が減らず、今年の米価が大幅に下がったわけです。このままでは来年度の米価も暴落しかねません。

◆過剰米を政府が買い取り、市場から隔離すること、◆米の需給対策を農家や流通業者におしつけるのではなく、国が責任を果たすこと、◆77万トンのミニマム・アクセス米の輸入を中止すること、◆コロナ禍で苦しむ国民、学生などに大規模に供給する仕組みを創設することを強く求めます。

## おむすび通信 (100)

まともな政治をとりもどしましょう。自民党は総裁選でメディアをジャックし、露出度を高めましたが、ウソ、改ざん、隠ぺいの安倍・菅政権の反省のない政権では政治は変わりません。共産党を含む野党が過半数を得て政権交代をはたすことが重要です。